蔵迫高架橋（上部工）工事
Construction of KURASAKO Bridge

川田建設株・大阪支店

1. 工事紹介
蔵迫高架橋は、中国機断自動車道広島浜田線の千畑田インターチェンジ付近に位置する、国道261号をまたぐ6径間連続PC箱桁橋であり、FCC工法で架設される（図-1参照）。

2. 主要諸元
形式：PC 6径間連続ラーメン桁
橋格：1等橋（TL-20、TT-43）
橋長：426m
支間：59.4+4×76.5+59.4m
有効幅員：9m
平面線形：最小曲線半径1400m
架設工法：張出し架設工法（FCC工法）

3. 施工概要
わが社におけるFCC工法の施工例は、現在架設中のものを含め、すでに20橋以上に及んでおり、わが国全体としては本橋が48橋目の施工となる。
(1) 柱頭部施工
柱頭部はプレサポートによる支保工施工で行う。柱頭部のコンクリート打設は2回打ち施工し、第1回目は下床版とウェブを施工し、第1回目は支保工により上床版の打設を行う。
(2) トラベラーの組立
ここで使用されるトラベラーは、200t・mタイプの中型である。

トラベラーは主構トラスを主体に組み立て、地上40mの高さでクレーンにより橋面のアンカーに固定される。
本橋の柱頭部長さは12.0mあるので、2基のトラベラーを同時に設置することができ、第1ブロックの同時施工が可能である（図-2参照）。

4. 工事工程
全体工期は平成2年3月から平成3年10月までである。
トラベラーは6基使用し、張出し完了後トラベラーを解体し、転用するものとする。
本橋の施工ブロック数は92個で、表-1に示すように1ブロック11サイクルで施工する計画である。

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>1</th>
<th>2</th>
<th>3</th>
<th>4</th>
<th>5</th>
<th>6</th>
<th>7</th>
<th>8</th>
<th>9</th>
<th>10</th>
<th>11</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>構造物伸長</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トラベラー移動及び付け</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>下床版,取付板設置</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>セーブ装置</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>内型枠組立</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>上床版設置</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>小ロット枠設置</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コンクリート打設</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鋼材打設</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>P C台梁挿入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>緊張準備</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

図-1 一般図
図-2 トラベラーの組立

(文責・上田幸雄)